

令和7年11月27日

埼玉県庁内に於いて

時間 16時～17時

意見交換会

本日のテーマ

「ウェルネス (Well-being) とまちづくり」

本日の出席予定者

- ・埼玉県側 関係部署から 11名
- ・埼玉県議会 議員 2名
- ・市民側 エリアマネジメント組織 西浦和駅東西地区まちづくり協議会 理事 1名
NPO法人さいたま都市まちづくり協議会 代表 1名
元NPO法人 きりん (ホスピス代表) 1名
まちづくり専門家 1名

なぜ？西浦和に「ウェルネス」でまちづくりをしようと思ったのか

まちが、Well-beingで満たされるとき、そこには混沌とした街ではない調和のとれた住みやすい街が存在するようになるからです。

ウェルビーイング (Well-being) は、well (よい) とbeing (状態) からなる言葉であり世界保健機関 (WHO) では、ウェルビーイングのことを個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定されるとある。

私たちが考える街の創造は、誰かが強制的に仕向けるのではなく、街に住む皆さんが主体的に共同意識を働かせ積み上げて行くまちづくり、つまり自分たちが自ら創造していく社会を望んでおります。

誰かに頼るのではなく、自ら考え問題解決して行くその住民が必要であります、それを実施するにあたり、埼玉県・さいたま市が先般より取り組んでいる「健幸アンバサダー」の考え方は素晴らしく今回、西浦和で「ウェルネス」で街づくりを行うきっかけとなりました。

西浦和のウェルネス文化定着構想について

◎私たちの目標

- 1, 誰もが街に出たくなるような仕掛けのあるまち
- 2, 誰もが人を呼びたくなるようなまち
- 3, 高齢者（特に）男性がまちづくりアンバサダーの呼びかけに手を貸したくなるような事業の創出
- 4, エンターテインメント（娯楽）は多額のお金を使わず、教育・教養のクラブ活動重視で、友達を増やし上層のコミュニティ活動を楽しむ工夫をすること（お金が皆に回る事）
- 5, 誰もが死ぬまで稼げる、自給2000円を今後10年以内実現するようなまちづくりの仕組みを創ります
- 6, ウェルネスなまちづくりは、モノの充実ではなく、心の安らぎを求め会うところから始まる
- 7, 上記の内容を実施するにあたり、高齢者が若く健康であり続けるために 健幸アンバサダー制度づくり、そのソフトにあったハード設計をまちづくりアンバサダーが担うものとする。
- 8, 同じく、これらを実施するうえで、2つの大きな柱を設けます。
 - (1) (仮称) 高齢者特定義務教育学校の創設
高齢者で時間を持て余している人が大勢いるので特別に賛同を得た方を中心に高齢者の義務教育学校を創ります。（ベーシックサービスの提供）
 - (2) スマートウォッチで健康管理
物忘れしない・寝込まない・ふさいだ気持ちにならないための「予病トリアージ」講座をスマートウォッチ等を使い実施して行きます。

予病トライアージについて

予病トライアージとは、看護師が患者の病歴や症状を基に、予防可能な死亡を減少させるために、患者の緊急度や重症度を迅速に評価し、優先順位を決定する手法です。トライアージタグを使用して、患者を赤、黄、緑、黒の4つの区分に分け、それぞれに応じた治療の順序や方法を決定します。この方法は、災害現場や病院内で限られた医療リソースを効率的に活用するために実施され、患者の安全を確保し、より多くの命を救うことを目的としています。



西浦和まちづくり「ウエルネス」文化の定着 の中で実施

NPO法人さいたま都市まちづくり協議会が提案

提案 (西浦和まちづくり「ウエルネス」文化の定着 構想)

転ばぬ先の予病トライアージ (仮称) 高齢者義務教育学校の創設

初等科 60歳代から (人生後半自覚体験)

中等科 70歳代から (スマートウォッチ初級による自己管理訓練)

高等科 80歳代から (本格的な予防トライアージ開始訓練)

博士課程科 90歳代から (高度な予防トライアージ開始訓練)